

特集展示（会期：平成27年3月10日（火）～5月10日（日））



古墳時代の導水施設

—国内最古級・九州初出土の導水施設木樋—



1 はじめに

福岡県行橋市延永ヤヨミ園遺跡で導水施設が発掘されました。導水施設は水を木槽でろ過して、清浄にするものです。木樋は住居などの集落が広がる丘陵の裾に据えられており、周囲に柱が並ぶことから、木樋を囲う覆屋が建てられ、外から見えないような造りになっていたと思われます。周辺には水源の可能性のある井戸や祭祀場の可能性のある島状遺構なども見つかっています。

2 導水施設木樋の構造

木樋は全長4.2mもの長さがあり、中央に槽を持つ木樋、左右に断面L字形の木樋が据えられて、中央からあふれた水を左右の樋が受け止める構造になっています。木樋は1本のツブラジイの木を削って造られていました。中央木樋の上流部には2つの槽が彫られており、上流から流れてきた水を2度ろ過し、下流へと清浄な水を流していました。

木樋は槽部分と下流部分で約2cmの高低差になるように据えられており、微妙な高さを調整するために、底に板を敷いて、杭で固定していました。木樋の年代を科学分析(放射性炭素年代測定)で調べた結果、3世紀中頃～4世紀中頃(約1,750～1,650年前)に伐採された木材を使用していることがわかりました。

3 他の遺跡で見つかった導水施設

古墳時代の導水施設は現在のところ近畿地方を中心に見つかっており、古くは奈良県纏向遺跡(3世紀後半～4世紀初頭)などで出現し、5世紀代に盛期を迎えます。ただし、今まで見つかった木樋はいずれも槽部分は1つのみで、纏向遺跡例は槽部分と樋部分が別造りされています。

5世紀代の奈良県南郷大東遺跡出土例は、木樋の形態や覆屋があること等、本遺跡出土例と最も似ています。他にも溜池や槽を持つ木樋に導くための樋が見つかっており、全体の構造がよく分かります。



延永ヤヨミ園遺跡の導水施設(当館撮影)

導水施設木樋および導水施設形埴輪の出土地一覧

遺跡	所在	時期	形態	備考
纏向遺跡	奈良	3世紀後半～4世紀初頭	木樋 井泉	組合式
延永ヤヨミ園遺跡	福岡	3世紀中頃～4世紀中頃	木樋	2槽
服部遺跡	滋賀	4世紀	木樋	
浅後谷南遺跡	京都	4世紀前半	木樋	
畝田遺跡	石川	4世紀前半	木樋	
千代・能美遺跡	石川	4世紀前半	木樋	
磯野北遺跡	奈良	4世紀前半	木樋	
瓦谷遺跡	京都	4世紀前半～中葉	木樋	2点
南郷大東遺跡	奈良	5世紀前半～中頃	木樋	
大柳生宮ノ前遺跡	奈良	5世紀中頃～6世紀中頃	木樋	
神並・西ノ辻遺跡	大阪	5世紀後半	木樋	2点
水衛遺跡	三重	6世紀	木樋	
三ッ寺I遺跡	群馬	5世紀後半～6世紀初頭	導水	石敷
大園遺跡	大阪	4世紀末～5世紀初頭	埴輪	
野毛大塚古墳	東京	5世紀前半	石製	2槽
宝塚古墳	三重	5世紀前半	埴輪	
芝ヶ原古墳群	京都	5世紀前半	埴輪	
五条猫塚古墳	奈良	5世紀前半	埴輪	
ナガレ山古墳	奈良	5世紀前半	埴輪	
心合寺山古墳	大阪	5世紀前半	埴輪	
野中宮山古墳	大阪	5世紀前半	埴輪	2槽
行者塚古墳	兵庫	5世紀前半	埴輪	2槽
月の輪古墳	岡山	5世紀前半	埴輪	2槽
御塔山古墳	大分	5世紀前半	埴輪	2槽
猿塚古墳	大阪	5世紀中頃	埴輪	

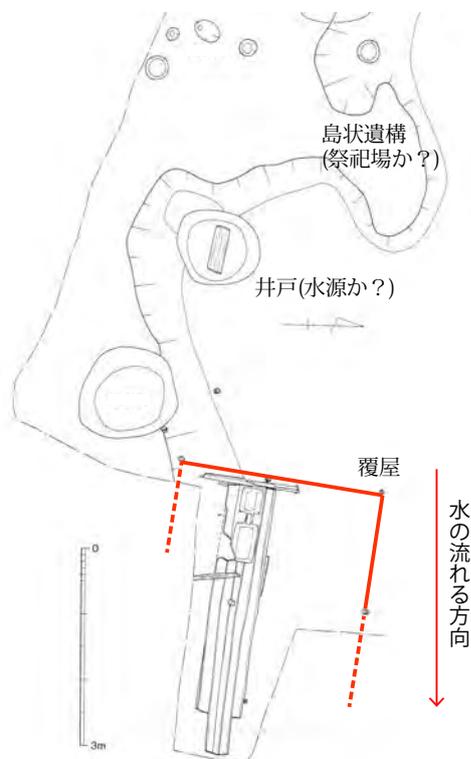
4 導水施設を模した埴輪

導水施設を示した埴輪も近畿地方を中心として見つかっています。「冪形埴輪」と呼ばれる覆屋に似た形態の埴輪の中に家形の埴輪が置かれ、その中に導水施設木樋と同じ形の埴輪が置かれており、当時の導水施設を用いた祭祀の様子が表現されていると考えられています。このような木樋形埴輪は、九州内では大分県杵築市御塔山古墳でのみ発見されており、冪形埴輪も他に福岡市鋤崎古墳など3例しか見つかっていません。埴輪では槽を2つ持つものが全国で5例見つかっており、御塔山古墳のものも2つの槽を持っています。

このような出土例から、今回見つけた延永ヤヨミ園遺跡の古墳時代の導水施設は、木樋自体は九州初出土であり、2つの槽を持つ木樋としては国内初出土、さらに国内最古級の導水施設となります。

5 導水施設の機能

果たして、導水施設の機能とは何なのでしょう？これまで大規模な構造をしていることや遮へい性があることなどから、地域の首長や王が関わったものとされ、王権祭祀やカミに対するマツリ、聖なる水を得る祭祀



導水施設の配置図 (当館作成)

などの説が挙げられています。他にも、古墳の墳丘上で埴輪によって表現されていることから葬送儀礼の一場面を示したものであるとして「殯所(遺体を置き、死者を悲しむ現在の通夜のようなものを行う場所)」説、土壌から寄生虫の卵が検出されたことから祭祀性を伴う「カワヤ(トイレ)」説なども挙げられています。いずれの場合も施設全体の規模やその特殊性などから、「首長(王)」が関わった、何らかの「祭祀」行為を行った場所と捉えられています。

延永ヤヨミ園遺跡の例は、木樋に付着した土壌で寄生虫卵が見つからず、トイレ遺構である可能性は低いと考えられます。しかし、下流域が調査区外になっていたため、実際の祭祀に使われたと断定できる遺物が少なく、推定が難しいのが現状です。少なくとも2つの槽があることから、「清浄な水を得る」意図は認められるのですが、それが首長による「水を得る」ことを対象とした祭祀場であるのか、「殯所」などの他の機能が付加された施設であるのか、今後も検討が必要です。ただし、木樋の規模などから、本例も「首長」が行う何らかの「祭祀」に関わる可能性が高いと考えられます。

また、導水施設から北側に110m離れた位置で同じ時代の方形の区画が見つかっています。区画の内部から建物跡は見つかっていませんが、このような区画は当時の首長が祭祀や居住のために造ったとされ、導水施設との関連性が想定されます。

(文化財調査室 城門義廣)



「水のマツリ」の想像イラスト

佐々木玉季 画 (奈良県立橿原考古学研究所附属博物館提供)



編集 発行: 平成27年 3月16日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>